

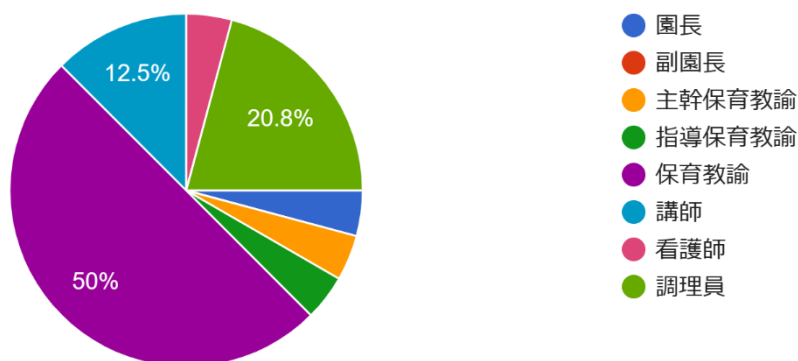
# 令和5年度 自己評価報告書（日高さくらの木）

標記について、次のとおり取りまとめましたので報告いたします。

なお、自己評価の結果をもとにして園の強み弱みを分析しながら改善を行い、保育の質の向上に努めて参ります。

## 回答者の職名

24件の回答

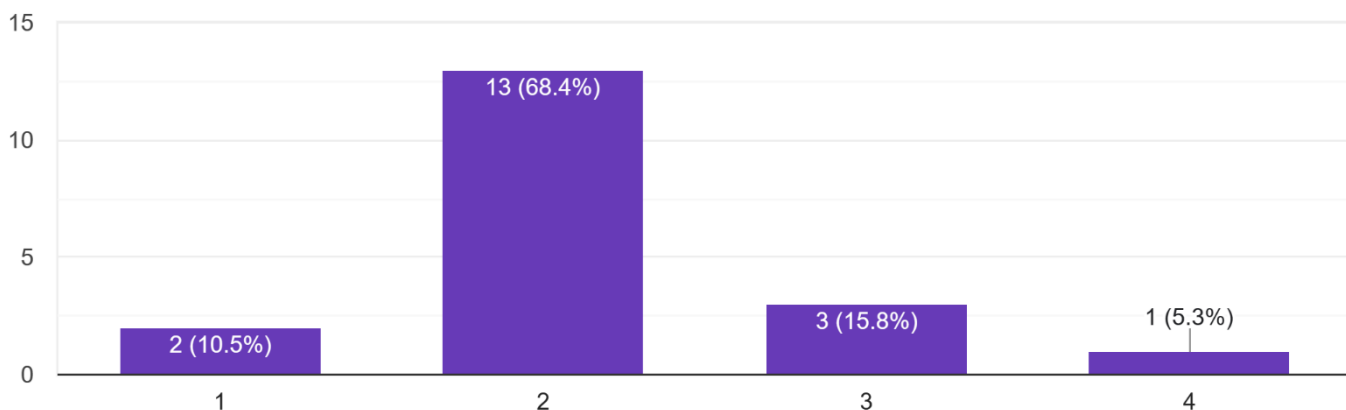


## 1 【教育内容】教育環境の構成

- ・子どもが安全で心地よく過ごせる環境をつくり、人とかかわる力が育つような配慮をしていく。

【I. 教育内容】1 教育環境の構成 ・子どもが...り、人とかかわる力が育つような配慮をしていく。

19件の回答



### 【上記取組の成果】

- ・安心して過ごせるような環境づくりや声かけを行ったことで伸び伸びと過ごせ、異年齢児交流も行い幅広く関わりがもてた。
- ・遊びの中でトラブルも多々見られたが、友達同士の関わりを見守りつつ、必要に応じて保育者が仲立ちし子ども同士で解決できる姿が増えてきた。
- ・子ども達がどうしたら集中して活動に取り組む事ができるのか考え棚の配置などを職員間で話し合った。
- ・細かな所にも目を向け第一に怪我のないよう環境を点検するなどした。
- ・異年齢での関わりができるよう環境を整えた。
- ・異年齢の交流が増え、良い関係性が築けている。
- ・異年齢児と交流できる保育環境を作ることで、遊びにも広がりが見られた。
- ・毎朝、園庭設備環境の点検を行い安全に園庭遊びができる環境作りができた。
- ・特に触れ合いをあそびに取り入れて過ごすことで安心感と信頼を意識して関わった
- ・子どもたち自身で自分の気持ちや感じたことを友だちや保育教諭に伝えることができる児が増えた。
- ・遊びに飽きないように定期的に保育室の玩具を変えたり、子ども自身が遊びを選べるように保育室やほふく室、ホール等、異年齢交流を積極的に行いながら広い空間の環境を作る等、工夫できた。
- ・伸び伸びと遊びを楽しめるよう、環境設定を行った。保育教諭自身児の名前を多く呼ぶことで、友達の存在に気づけるよう促した。
- ・コーナー保育の中で、遊びを通して異年齢児と関わり、年下の子にも思いやりの気持ちを持って接する姿が見られた。
- ・子どもが安心して心地よく過ごせるように、あたたかく見守り信頼関係を築いた。異年齢での関わりも多く見られた。
- ・各コーナーで自ら取り出し、片づけられ、異年齢が助け合い一緒に遊べる環境であった。
- ・毎日の園庭の点検や保育の中で危険な所がないかを見ることで、子どもたちが怪我がなく遊べるようにした。

### 【上記取組の今後の課題】

- ・今後も異年齢児交流を続けていく。
- ・今後も安全な環境のもと、友達との関わりを持つことができる環境を作っていきたい。
- ・子ども達自身が遊びに取り組めるよう更に配置を考えなければならない。
- ・誰かに任せるとはせず皆で気をつけて行けるようにしたい。
- ・より子どもたちが安心して過ごし、遊び込めるような環境を考え整えていく。
- ・行事などでの交流
- ・様々なコーナーでより充実して遊び込めるように改善していく。
- ・園庭以外にも園舎内に危険なところがないか定期的に確認していく。
- ・このまま継続していきたい
- ・子どもたちに伝える時に言葉の選び方に気をつけ、正確に伝えられるようにする。
- ・高月齢児と進級児を含めた低月齢児それぞれに合わせた遊びではなく、低月齢児に合わせた活動のほうが多かった為、高月齢児が満足できるような環境にしていきたい。
- ・友達との関わりの中で自らの気持ちの伝え方を教えていく。
- ・清掃等行き届いていない部分があった。

- ・積み木など物作り途中である物をその都度片付けなくても良いスペースがあると良い。
- ・友達と関わることが苦手な子に対し、保育教諭が仲立ちをしながら友達と関わられるようにしていく。

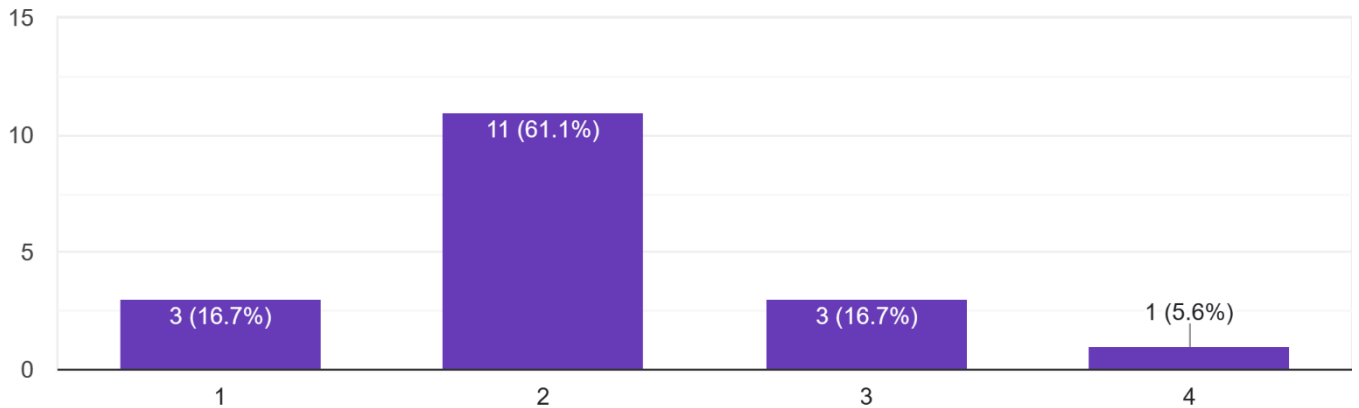
## 2【教育内容】教育環境の構成

- ・子どもの主体的な活動を尊重した環境構成に取り組んでいく。

### 【I. 教育内容】2

教育環境の構成 ・子どもの主体的な活動を尊重した環境構成に取り組んでいく。

18件の回答



### 【上記取組の成果】

- ・子どもの声に合わせて、室内で遊びたい児、戸外で遊びたい児の気持ちを尊重し職員配置に留意して取り組むことができた。
- ・子ども自身が興味関心のある遊びを選んだり決めて積極的にいきいき遊ぶ姿が多くなったと思う。
- ・室内でも身体を動かす遊び、積み木など静かに集中する遊びに分け好きな遊びを楽しめるように工夫した。
- ・今ある環境の中で出来る限り整えたつもりではあるがまだ足りない部分もあると思う。コーナーを作り、やりたい遊びを自ら選択して遊べるような環境を設定した。
- ・遊ぶものや場所などを自分で決めて遊べていた。
- ・自由にコーナーで遊んだり、製作、ままごとなども様々な素材や道具を用意した事で意欲的匂い遊ぶことが出来ていた。
- ・高月齢児と低月齢児にわけて活動することができた。
- ・全てが主体的というわけにはいかなかったが、子どもたちの欲求に添った関わりができるよう意識した。クラスの職員と共有しながらできた
- ・子どもたちに何をして遊びたいか聞いたり、室内とほふく室どちらも活用して遊びたい方で遊べるような環境づくりができた。
- ・子どもの声を聞き、やりたい遊びを優先しながら途中で遊びに飽きた際に他の遊びが選べるような環境にできた。
- ・部屋にある玩具だけでなく、粘土やパステルなど、児の声を聞きやりたいと意思表示する姿が見

られたら、積極的にいった。

- ・製作コーナーでは、様々な素材や用具を用意したことで、イメージしたものを自由に表現することを楽しんでいった。また、行事について子ども同士で話し合い、自分の意見を話したり友達の意見を取り入れながら準備などに取り組んだ。
- ・それぞれが好きな遊びをじっくりと楽しめるようにコーナーを充実させた。
- ・製作コーナーではいつも同じ物ではなく、包装紙、トイレットペーパー、段ボール等を時々入れ替えることで製作意欲がかき立てられるよう努めた。
- ・コーナーを作り、好きなところで遊ぶように環境を作った。

### 【上記取組の今後の課題】

- ・今後も子どもの気持ちを尊重し主体的な活動を行っていきいたい。
- ・今後も引き続き、子どもの主体性を大事にしていけるような環境構成に取り組むたい。
- ・飽きてしまい遊びが混ざってしまうのでどうしたら上手く遊びこめるか考えていく。
- ・遊びがあまり変わり映えしない為、こどもが幅広く遊び込めるように準備していきいたい。
- ・特に木育玩具のコーナーでは、使い方が悪くなってしまいう場面も見られた。大事に使うことや遊び方を改めて知らせていく。
- ・片付けを自分から行えるように環境構成を考える
- ・動線などをしっかり踏まえた環境を設定する為、遊びの姿から工夫してより自主的に遊びを発展させることができるようにしていく。
- ・遊びがマンネリ化しているため、季節や月齢に合った遊びを考えていく。
- ・今後も継続していきいたい
- ・異年齢交流を嫌がる子もいる為、引き続き配慮した対応をしていく。
- ・児の声に耳を傾けて、やりたい気持ちを優先していく。
- ・製作コーナーでの素材や用具の使い方について、適切な量や正しい使い方などを知らせる時間を設け、子どもたちが共通の認識を持ちながら遊ぶことができるようにしていく。
- ・子どもの思いのみではなく、保育者の思い願いを込めた環境構成。興味関心に合わせて見通しをもって進めていく。
- ・その時、その日で終わらず継続し遊びが発展していけるようにできると良い。
- ・コーナーの中でも、毎日同じ遊びにならないように新しい玩具を取り入れたり、作っていく。

### 3 【I. 教育内容】指導とかかわり

- ・一人ひとりの幼児の思いを対話を通して把握し、寄り添いながら応答的に関わっていく。

### 【上記取組の成果】

- ・児の“今”思っている気持ち、を聞き出し関わる事ができた。
- ・一人ひとり、丁寧に関わっていく事で子どもの欲求を満たしてあげ、情緒の安定へと繋げる事ができたと思う。
- ・喃語を話す事ができるようになり、絵本などに興味を持ってきたので積極的に絵本の時間を作った。
- ・中々常日頃1人1人にと丁寧向き合えない時間帯や体制などがありできたとは言えない。
- ・個々の思いを受け止め、丁寧に声掛けをすることを心がけた。
- ・自分の気持ちを伝えようとする姿が見られるようになった。  
なるべく、一人ひとりの思いに寄り添って、援助するように日々心がけて援助した。そのことで、

子ども達の良さを把握しながら関わる事が出来た。

- ・子ども一人ひとりの欲求を満たしてあげられるようにじっくり関わる事ができた。
- ・成長過程で、できる事、できない事をクラスの職員で把握、評価して、個々にあった対応、声掛けができた
- ・一人ひとりに寄り添えたことにより、以前よりも信頼関係が築けたと感じた
- ・子どもとできるだけ同じ目線にいるように気をつけながら関わっていた。子どもとの信頼関係ができている。
- ・児の気持ちに寄り添う事ができた。
- ・自分の思いを言葉で伝えられるようになった。
- ・職員からの一方的な話ではなく、対話することを大切にした。
- ・想いを汲み取り、指示とならぬよう問いかけや提案するなど心がけた。
- ・トラブルの際、一人ずつ子どもたちの話を聞くようにした。

#### 【上記取組の今後の課題】

- ・職員配置など時よりじっくりと関わりづらい時もあるため、最善に子どもに寄り添い応答的に関わっていききたい。
- ・今後も一人ひとりの思いを受け止め、丁寧に関わっていききたい
- ・自分で読みたい児もいるので、読み方を教えていく。
- ・時間をゆったりと過ごし1人ひとりと丁寧に扱われるよう進めていけるよう心掛けたい。
- ・一人ひとりとじっくり関わることはできていなかったと思うので、ゆったりと過ごすことを心掛け、個々に寄り添っていく。
- ・継続して保育を行う。
- ・トラブルの際にゆっくり個々に対応出来ないことがあったので、職員間で連携をはかり、対応できるようにしていく。
- ・引き続き、子ども一人一人の気持ちや欲求を受け止めていく。
- ・クラスの職員はもちろん、園全体でと共有していききたい
- ・それぞれで理解度が違うため、その児にあった関わり方や言葉がけをしていく。
- ・余裕がなくなった際に冷たく対応してしまったことがあった。深呼吸しながら落ち着いて関わっていききたい。
- ・トラブルなどには対等に対応し、気持ちに寄り添いながらも、援助していく。
- ・より丁寧に余裕を持って、寄り添いながら関わっていく。
- ・個々の特性、性格を把握する。
- ・子どもたち同士で話ができるように仲立ちをしていく。

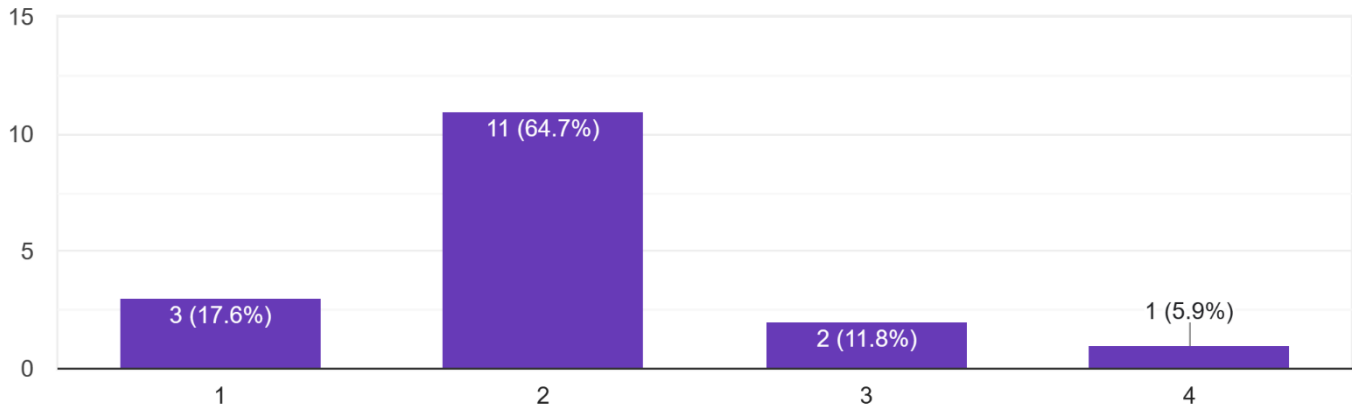
#### 4 【Ⅲ. 教職員体制の充実】 教職員同士の協力・連携

・指導上配慮を必要とする幼児については教職員全体で特によく話し合い、共通理解の上対応していく。

##### 【Ⅲ. 教職員体制の充実】

4 教職員同士の協力・連携 ・指導上配慮を必要...特によく話し合い、共通理解の上対応していく。

17件の回答



##### 【上記取組の成果】

- ・職員会議を通し毎月その児について詳しく知ることができている。またクラス内でも児についてこまめに話し共通理解をしている。
- ・クラス関係なく全体で共通理解する事で、配慮が必要な児に対して教職員同じ対応することができたと思う。
- ・クラス間で話し合い進める事ができた。
- ・職員同士皆で声を掛け合い共通理解する事ができていた、
- ・職員会議などで情報を共有し合うことができた。
- ・情報共有がされていた為他クラスに入っても対応ができた。
- ・外部の先生から数回カンファレンスをすることで、対応の仕方を学ぶことが出来た。
- ・クラス内の職員同士で話し合ったり全体に周知するときはスラックなどを活用することができた。
- ・特にも危険やリスクが高いため、園全体で共有することを心がけて、周知は徹底した
- ・職員間で共通理解をしたことにより、バラバラな関わり方ではなく、統一した関わり方を子どもたちにできた。
- ・職員間で声をかけ合い、子どもについて相談し合いながらまとまった保育ができた。
- ・職員同士の対話を行い、児一人ひとりの特徴を理解し合えた。
- ・異年齢保育を行っているので、担任だけが対応するのではなく、職員全体で気にかけて危険のないように見守った。
- ・職員会議で議題にして、子どもの現状を把握することができた。
- ・現状を知り、伝え合い、より良い声かけ導きに努めた。
- ・トラブルの際には、職員全体で対応する。声掛けを細めにする。

## 【上記取組の今後の課題】

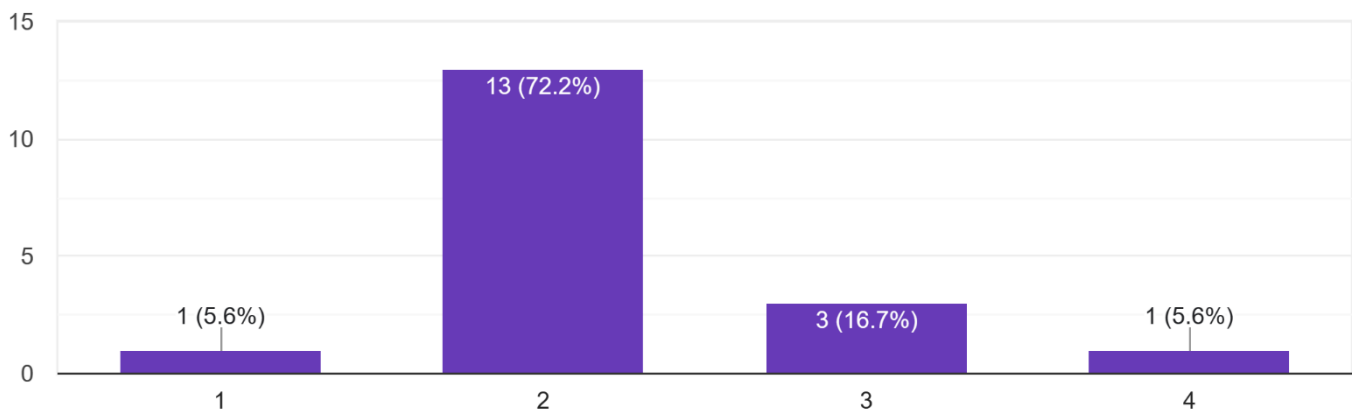
- ・今後も職員会議を通し、共通理解をしていく。
- ・引き続き教職員全体で話し合い共通理解していく。
- ・クラス間だけでなく、他のクラスともつながっていく。
- ・これまで通り理解を深めながら保育にあたる。
- ・対応の仕方などを全クラス共通理解していく。
- ・より密に話し合いをする。
- ・保護者と連携することが難しく、援助を思うように出来ないことが多くあった。保護者と信頼関係を築き、一貫性のある対応が出来るようにしていく。
- ・引き続き、職員同士で話し合いやスラックなどを活用して情報を共有していきたい。
- ・リスクや危険性なども具体的に周知を徹底していきたい
- ・私語には気をつける。
- ・対話する場所、時間を適切に行っていく。
- ・危険な行動が見られたときにはすぐに止められるように引き続き職員配置には十分に気を付けていく。
- ・クラスのみではなく、園全体で対応するために、必要に応じて話し合いを密に行う。
- ・引き続き状況を伝え合い共通理解していきたい。

## 5 【IV. 安全・衛生管理】 安全への配慮

- ・年齢に応じた適切な環境構成や言葉がけを行い、危険が予測される場合は幼児たちと一緒に見たり、考えたりなどして安全な遊び方について気づくことができるようにする。

### 【IV. 安全・衛生管理】 5 安全への配慮 ・年齢...遊び方について気づくことができるようにする。

18件の回答



## 【上記取組の成果】

- ・戸外遊びや室内遊びでの注意事項などは遊びの前にクラス内で話をし、全員が安全に遊べるよう努めた。危険な箇所はみんなで近くまで見に行き、入らないことを再確認するなど、安全に遊べるように配慮をした。
- ・安全な遊び方について、子ども同士で気付いて友達に注意する姿が多く見られるようになった。
- ・子ども達に危険がないよう職員体制も含め安全を第一に保育を行った。

- ・危険な場面では どうしてそうなったのかどうしたら良いかなど
- ・当人やみんなで考えたりする事ができていた。
- ・危険なことなどをその都度子どもたちと考えたり、職員で共有しあった。
- ・大きな怪我がなく過ごせた。
- ・子ども達と考えながら、様々な問題について話し合い、進めてきたことで、危険なことを子供達も意識して生活していた。
- ・年齢に応じたわかりやすい言葉で声をかけることができた。
- ・年齢的に一緒に確認するということが難しいため、職員で危険などを確認し合い、回避するようにした
- ・子どもの動きを予測しながら、危険な時はその都度声をかけていた為、大きな怪我はなかった。
- ・月齢にあった声の掛け方、言葉の伝えかを行っていく。
- ・約束事がなぜあるのか、また、危険な行動はどのようなことか話し合ったり保育教諭から知らせる時間を設け、自分で考えながら判断することができるようになってきた。
- ・必要に応じて声掛けをして一緒に考えて気付きに繋がるようにした。
- ・後からではなく、その場面場面で伝え皆で考えるよう促していった。
- ・散歩で横断歩道を渡る時に子どもたちが自分たちで考えて渡れるように声掛けや促す。

#### 【上記取組の今後の課題】

- ・今後も年齢にあった環境構成、言葉掛けをしていく。
- ・今後も安全な遊び方を伝えていくとともに危険が予測されるときには子ども達と考え、気付けるように伝える
- ・子ども達と一緒に考えることはできなかったなので、問いかけていきたい。
- ・遊び始める前に約束事をするなどをし危険がないようこれからも話をしながらみんなで考える
- ・より安全に保育を進めるために、危険なことや気づいたことを報告しあい、全クラス職員共通理解し、徹底する。
- ・子どもたちが自ら気づけるような援助や環境構成をしていく。
- ・話し合いの中で理解出来ない子もいた。そのことで、トラブルも見られ、危険な行為もあったので、伝え方を工夫していく。
- ・引き続き、年齢に応じてわかりやすい言葉で声をかけるようにしていく。
- ・今後もより想像力を働かせて予測して、取り組みを継続していきたい
- ・異年齢交流をする中で幼児が乳児を抱っこしようとしたりお世話をする中でバランスを崩したりと危険な様子が何度か見られた。抱っこはせず手を繋いで歩くように声をかける。
- ・危険な事を端的に伝え、どうすれば良いか自分で考えられるような言葉掛けをしていく。
- ・良いこと、悪いことは理解しているがそれが行動に伴わないことがある子もいるのでその都度声を掛け、危険のないようにしていく。
- ・一番大切な安全について、ヒヤリハットの活用はもちろん、職員間でも協議したり、意識を高くもって日々の保育にあたる。
- ・異年齢での遊びでは特に教諭間のコミュニケーションと危険察知がより必要だと感じる。
- ・子どもたちに分かりやすく伝えようとし、未満児に伝えるような話し方になってしまう時がある為、気をつける。

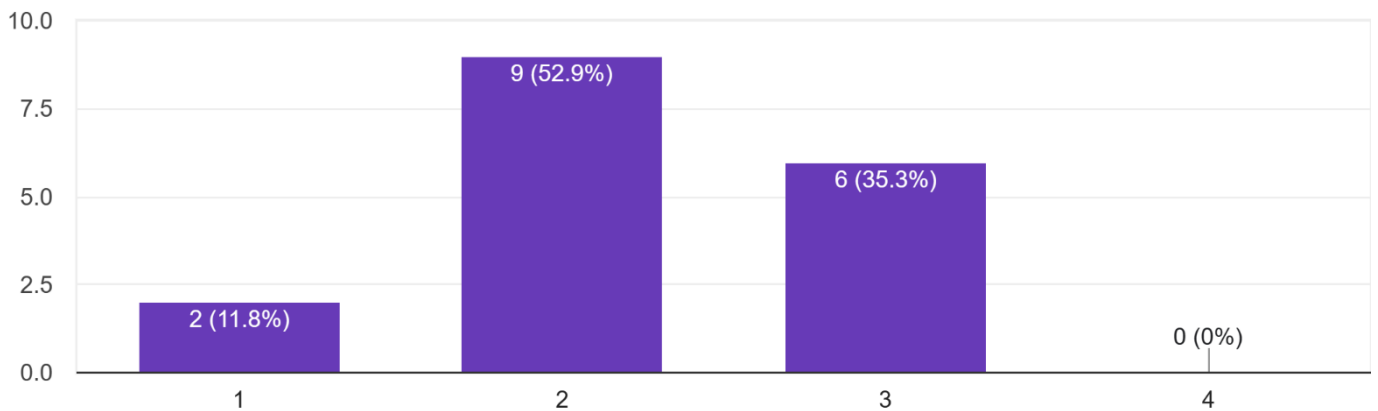


## 6 【VI. 保護者との連携】 協力と支援

- ・様々な経験を通して職に関心を持ち子どもの食生活を家庭と連携し充実させる。

【VI. . 保護者との連携】 6 協力と支援 ・様々...持ち子どもの食生活を家庭と連携し充実させる。

17件の回答



### 【上記取組の成果】

- ・偏食が目立つ児が多く、迎えの際などに給食時の様子について伝えている。家庭での様子も聞き、様子を情報共有している。
- ・苦手な物でもひと口食べてみようとする姿が増えたと思う。
- ・子ども達それぞれの食事の様子を見て保護者と食事について進める事ができた。
- ・給食面では中々家庭との連携が取れていなかったように思う。
- ・バイキング形式になり、自分で食べられる量を知らせることができるようになってきた。また、食べたいタイミングで食べにいくことができている。
- ・自分から進んで給食を食べるようになった。
- ・野菜栽培などを通して、自給自足の大切さなど保護者にも感じてもらうことが出来た。
- ・園でも食事の様子を伝えたり、家での食事の様子など保護者の方から話を聞いて楽しく食事ができるように心がけた。
- ・特に離乳食が始まる時期なので、保護者との連携が必要です。食する事で命にも関わるので、その子の特性を理解して行うことができた
- ・子どもたちの食生活について連絡ノートや帰りの際のコミュニケーションで情報共有ができた。
- ・野菜を一緒に育てたり、簡単なクッキングを通し、食への興味関心に繋げられた。
- ・保護者とコミュニケーションを取る事で、普段の食生活の様子を知ることができた。
- ・紙芝居や絵本などに出てきた料理に興味を持ち「作ってみたい！」とクッキングをしたり、苦手な野菜でも自分たちで育てたものは食べることができた。
- ・畑での野菜作りやクッキングを楽しんで行ったり、園庭の実のなる木などの変化に気づくことができた。
- ・あまり無理強いをせず楽しい雰囲気となるよう努めた。
- ・苦手な食べ物でも頑張っ食べれるよう声掛けを行う。

### 【上記取組の今後の課題】

- ・偏食が未だ目立つため家庭との連携は以後も続けていき、児自身が食に興味をもてるよう、読み聞かせやペープサートなども用いり、進んで食べられるようにしていく。
- ・引き続き、苦手な食に対しても苦手意識を少しずつ軽減できるような声かけや関わりをしていきたい
- ・月齢に合わせ声をかけていく。
- ・偏食がある子などには栄養士から等話を聞く機会を設けるなど専門的なところで話をしたら良いかと思う。
- ・偏食の児への対応を考え、意欲が出るような声かけの仕方に配慮する。
- ・絵本や行事などを通し、食育に興味を持ってもらえるように促していく。
- ・より、食への関心につながるような発信をしていく。
- ・引き続き、保護者と密に連携をとって食材表などを進めてもらう。
- ・職員同士で共有し合い、今後も継続していきたい
- ・子どもの食についてまだ悩んでいる家庭や保育教諭間でも気になる児がいるため、情報共有を今後も行いながら関わりをしていきたい。
- ・かなり偏食の子がいる為、後日面談を通し、家庭と連携しながら進めていく。
- ・普段、家庭での食生活を知ると同時にそこからどう進めていくか、職員同士で考えていく。
- ・離乳食がすすまなかったり、はしの持ち方や、好き嫌いなど、今後も家庭と連携して進める。
- ・時間のかかる子どもへの声かけは難しいと感じる。
- ・家庭と連携させることが出来なかった。